


# 全国港湾 Fax 通信

|                        |  |
|------------------------|--|
| (公・事・取扱注意・親展)(写)       | (発番)全国港湾24FAX第83号  |
| (宛先)                   | 2025年4月1日  |
| 各 四役、中執、単組委員長、地区港湾議長 殿 | (発信者)<br>全国港湾書記局  |

(件名)

25港湾春闘情報 (4)

(本文)

1. 全国港湾と港運同盟は、3月25日(火)に第3回中央港湾団交を開催し、その場で日港協の修正回答を求め、交渉促進と要求の前進をはかるために3月30日の始業時から3月31日の始業時までのストライキを通告し、決行した。
2. その結果、各地区からの報告書にある特徴的な点を報告いたします。  
(4月1日16時現在の集計、報告地区15地区中15地区)
  - (1) 各地区ともパトロール隊を配置して、港全体のパトロールを実施し、問題なかったと報告が来ている。
  - (2) 北海道港湾は、各職場単位で抗議集会を開催し、総勢280名が参加した。就労拒否・荷役阻止したのは、入港した内航船1隻、コンテナ船2隻。
  - (3) 東北地区港湾は、各5地区でパトロールを実施した。小名浜港では約200名の参加で全体集会を行った。全体では、RO/RO船の就労拒否を4隻、コンテナ船2隻の就労拒否をした。また、常陸那珂港ではゲートをオープンしていたのでクローズの要請をし、指導した。
  - (4) 日本海地区港湾は、各職場単位で抗議集会を開催し、延べ830余名が参加した。
  - (5) 東京港湾は、港頭地域のパトロールを実施、作業は行われておらず、スト破り行為はなかった。
  - (6) 川港労協は、2班に分かれて30日と31日早朝にパトロールを実施。組合旗を設置した。
  - (7) 全横浜港湾は、ストライキ行動のアピール集会を行い、マスコミの取材を受けて新聞の一面に写真付きで24時間ストライキの記事が掲載された。その後、4班体制で港内のパトロールを実施。作業は行われておらず、スト破り行為なし。
  - (8) 駿河港湾は、早朝の集会を実施し、その後2班体制でパトロールを実施した。コンテナ船3隻の就労拒否を行った。
  - (9) 名港労協は、港頭地域のパトロールを実施。また、31日早朝の集会を行った単組もあったと報告を受けた。
  - (10) 大港労協は、事務所に集合し5班体制40名でパトロールを実施。その後、大港労協の事務所で小嶋議長より、中央団交の報告を行い、意思統一を行った。
  - (11) 神戸港湾は、パトロールを行う前に意思統一を図った。その後、2班に分かれて実施。作業は行われておらず、スト破り行為なし。
  - (12) 四国港湾は、三島川之江港でコンテナ船の作業が30日に行われるとの情報が入ったので、関係者に電話で注意したところ、作業を止めることが出来た。各県の指

定港と三島川之江港のパトロールを実施した。

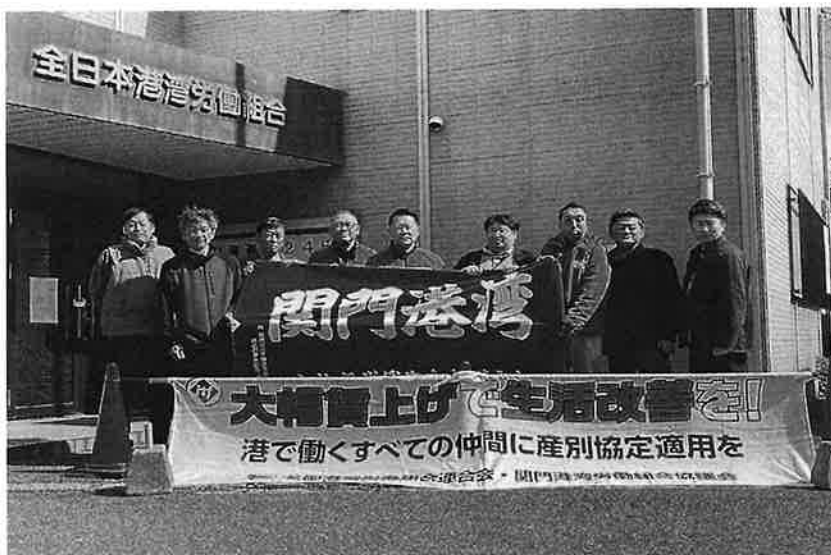
- (13) 関門港湾は、パトロールを2班分かれて実施。特に問題はなかった。
- (14) 博多港湾は、組合事務所に集合し、意思統一を図った。その後、2班に分かれてパトロールを実施。終了後は、報告集会を行った。スト破り行為はなし。
- (15) 鹿児島港湾は、パトロール行動前に行動内容を確認して2班体制で実施。作業は行われておらず、スト破り行為なし。各単組ではスト行動前に集会を行った。
- (16) 沖縄港湾は、30日の早朝にスト突入集会を30名で行った。31日の早朝には300名で抗議集会を行い、港運同盟と連帯で開催した。入港したRO/RO船計8隻の就労拒否を実施した。

3. 以上の行動によって、第一次行動は大きな混乱なく成功裏にストライキを打ち抜くことができた。また、全地区の報告、有難うございました。

各地区の奮闘に感謝しつつ、第二次行動でも中央・地区一体でがんばりましょう！

以上

関門港湾



沖縄港湾

